

12月フィリピン訪問報告

平成27年12月25日

(作成：古川勝利)

1. 12月2日：セブ州バンタヤン島シリオン高校

- 目的：昨年完了したプロジェクトの視察が出来ていなかったため、その状況チェックを行う。

- 1) 支援プロジェクト：校舎の屋根を2014年の4月に修理した校舎の窓とドアを新しく修理していたが、大工の技術不足に因り、数枚のま다가割れてしまい、以前の状況とあまり変わらない。また、ドアも同じようにノブが壊れており、南京錠を使っていた。役場に頼り過ぎ、自分たちに修理改善する意気がないことに少しがっかりする。また、床をコンクリートに下校舎は他の整備も進んで立派な校舎になっていたが、使用している机や椅子を見て、その酷さに呆れる。「自分で家から椅子を持って来ている『マイチェア』状況にある」との学校側の説明。また、本も台風の被害を受けたのかも知れないが、床にごみの様に放置している様を見て「教育の神様が見捨ててしまうだろう」と感じる。基本的な「物を大事にする」教育が必要と思う。この国には「先生」として関わる必要性を痛感する。
- 2) 政府の新校舎建設計画：毎年、学年が増え（高校3年制度になったので、今までより2学年の生徒が増えた）、教室がないので、仮の教室を使ったり、定員オーバーでクラスを構成したりしているが、隣接する土地をドミン氏の親戚が寄付をしたという事で、その新校舎建設の予算は既に確保済みとのこと。唯、その移転先の決定が私欲的利害関係から、まだ決着していないとか。フィリピンの社会では、ボランティア活動にも利害がまわりついて居る様子。天罰は、直ぐには終結しない人間の社会を感じた。



屋根と窓、ドアの修理



床のコンクリート整備

2. 12月4日：東ネグロス州ラリベルタッド町ラリマールホテル

■ 宮城ネグロス奨学基金プロジェクトの建設状況を確認する。

- 1) コテージ完成度：3か月の予定では外装が終わった所で、現在内装に取り掛かっている。ベランダには天然の丸太を柱として使い、部屋にはコンクリートの柱と梁を使って頑丈に出来ているが、外観は天然の丸太の様に細工されている。想像していたより大きな部屋にまとまっており、「日本語の講義」の教室としても使える広さ。是非、完成した暁には恒例の夏休み日本語指導プロジェクトを実施したい。このコテージの「お祓いセレモニー」を来年1月半ばとして、現地を再訪する予定。
- 2) 奨学金制度：町長から、隣町にある「東ネグロス工業大学」へこのプロジェクトの「奨学金制度」は紹介されており、大学も学生たちも楽しみにしているとのこと。フィリピンの新しい教育制度により、ハイスクールが6年制となる為、来年度は大学の新入生はいないので、大学2年の学生を対象に奨学金を提供して行くことになる。年間3名を目途に、最多12名の大学生たちを教育者と育てる奨学金制度であることを周知して貰い、ラリマールホテルの利用者にも有意義に協力して貰いたいと考える。



茅葺屋根の丸太づくりのベランダ・コテージ



内装はシュロの葉で編んだバニグ、外壁は竹で編んだアマカン

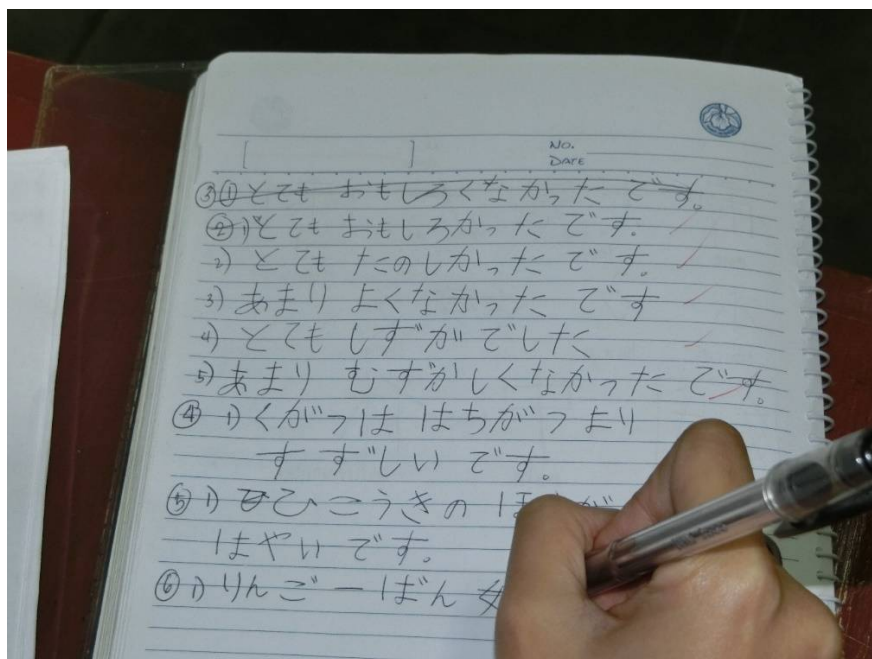
3. 12月日～15日：西ネグロス州バコロド市、聖アゴスティン大学にての日本語講座

- 目的：優秀な看護師たちへの日本語教授法の研究と、古川式指導法の有効性の確認。

- ① 初日に平仮名を教え、それからは全て平仮名しか板書しないが、基本的に絵イメージで会話を促す指導法。



② 受講 7 日目：練習問題をノートに回答する。



● 学生の学習度と意見

学生名	マルジョディ (21 才)	ロジ (29 才)	アイリッシュ (27 才)	
大学名	聖アゴスティン大学	聖アゴスティン大学	セレマン大学	
学士専攻	看護師	看護師	看護師	
大学卒業成績	優等賞	卒論優秀賞	優等賞	
受講成績	テスト	81%	89%	70%
	中間	95%	94%	89%
	検定	78%	54%	81%
	期末	92%	66%	59%
日本語について	日本語は興味深い。通常の会話は良く聞いていないと言葉が拾えないので、集中が必要。	平仮名を理解し、日本語に馴染めば、難しい言語ではないと思う。唯、漢字は難しい。	面白い。初めは難しかったが、興味を以って臨めば学習は容易いと思った。	
日本への関心	このコースを学んで日本への関心が増した。新幹線、富士山を体験してみたい。	勿論、日本への興味が湧いた。	大変刺激を受けた。日本語は難しすぎると思っていたが、この講義を受けて全てが変わった。	

教材について	大変理解し易い。しかし、もっと例文があればとも思う。	教材は非常に分かり易い。また、副教材も役に立つ。	単語の予習をする様にして欲しい。
教え方への要望	会話ベースの教授方は良いと思う。発音、文章作成の時間があればと思う。	言葉が早いので聞き取れない時が少なくなかった。	個別会話質問の時間が一番良かった。だから、会話の時間を増やして欲しい。
古川式教授法への意見	視覚材料中心の教え方で良い。唯、生徒に均等な会話の機会を与え、学生を比較しないで欲しい。	その教え方に満足している。	完璧だと思う。複雑な日本語授業も簡単に教えてくれたと思う。
指導法改善への意見	もっと会話、文章作成練習の時間が欲しい。また、もっと長い講義の時間が必要と思う。	最適であったので特に要望はないが、もっと会話の機会を増やしてほしい。	日本語は皆が考えるほど難しくない。自分自身、初めは日本語に関心はなかったが、この指導法なら、皆楽しく学べる。
総評	古川氏は厳しい先生ですが、会話を主体にした貴重な学習の機会でした。この講座はもっと多くの人に提供されるべきです。	大変分かり易い講義で、今までで、一番優秀な先生でした。もっと多くの卒業生がこの機会を得ることを願います。	先生は賢い人で、生徒の関心を引く術を知っています。講義の準備も完璧でした。確信的にこの講義を皆に薦めます

- まとめ：次回の同大学での授業、将来の大学生向けの授業でも、会話を中心に進めて文法を理解させる教授法を以て行う。単語については、予習のやり方、自己紹介の修得指導を徹底して、宿題等もより有効に活用しての改善指導法を編みだしていきたい。また、あくまでもレベルの高い、落伍者を前提として指導法も適正な方法として、実施する機会も高めていきたい。「弱肉強食」を以て適正な人材を得る術とすることが常套手段であることも現実であるから。

4. 12月訪問について：既に災害支援プロジェクトの必要性はないと考える。唯、これからの教育支援が出来る形として、この奨学基金プロジェクトが有効となるならば、続けて同様の企画を考察したいと願っている。また、日本語はこれからの日比産業協力の精神を以て、積極的に活動し、業務的にも雇用機会を生み出す活動として特に来年は努力して行きたいと考えている。